

在宅医療・介護連携研修

(旧称:在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修)

人材育成研修ニュース No.10

西区役所高齢・障害支援課

電話:320-8410

令和 8 年 3 月発行

西区役所では、地域包括ケアシステムの推進に向けて、平成27年度より西区在宅医療相談室と連携し「在宅医療・介護連携研修（旧称：在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修）」を開催しています。令和7年度は認知症の方の意思決定をテーマに「認知症患者における意思決定支援」について講義とグループワークを実施しました。西区において医療や介護に関わる多職種の方が、顔の見える関係を作り、情報交換する機会となりました。

「在宅医療・介護連携研修」

日 時：令和8年2月18日（水）19時～20時30分

場 所：西区役所3AB会議室

参加者：医師・薬剤師・看護師・リハビリ職員・ケアマネジャー・
介護福祉士・地域包括支援センター職員 ほか

参加人数：39名

内 容：【講義】「認知症患者における意思決定支援」

栄樹庵診療所

院長 繁田 雅弘 先生

【グループワーク】

講義を受けて、感想共有、課題共有、連携の要望



講義:認知症患者における意思決定支援

栄樹庵診療所院長 繁田雅弘 医師より、「認知症患者における意思決定支援」をテーマに講義を行って頂きました。講義では、ガイドラインや基本的な考え方、代理意思決定と協働意思決定の違い、実際の事例も交えてご講義いただきました。

臨床での業務との兼ね合いで難しいことがあると前置きされた上で、認知症の方に適切でないコミュニケーションや家族との意見調整がうまくいっていないなど、意思決定支援が難しくなる要因や文化的背景が意思決定に及ぼす影響などについてお話があり、新しい認知症観や個人の尊厳を尊重することが非常に重要であるとのお話がありました。



意思決定支援を支えるもの

→新しい認知症観です。

(自分の中の古い認知症観を超えて)



グループワーク

講義を受けての個人の感想、現場で感じている課題、どのように連携していきたいかなどについて、異なる職種同士で意見交換を行いました。



●各グループから出た意見

【個人の感想】

「新しい認知症観を学べた」、「家族の声を聴いて、本人を説得している自分がいることに気付いた」、「医療側として、先手を打って予防策をとってしまう」など、学びや気づきを得たといった意見が多く出ました。

【現場で感じている課題】

「事故リスクを回避しながら、本人のやりたいことや気持ちを尊重することが難しい」、「診療場面など時間的制約がある中で本人の意思確認が難しい」、「家族の意見に流れる傾向がある」、「家族、キーパーソンが不在で本人の意思決定が難しいと感じる」などの意見が出ました。

【どのように連携していきたいか】

「オンライン会議や情報共有システムを活用し、機会を作れるとよい」、「情報共有はできているが、その先のことを考えていきたい」、「深堀をしてその人の考えを知ることが、次の対応やケアにつながる」など、難しさを感じながらも、今後に向けて活かしていきたいと言う前向きな意見も出ていました。

参加者からの感想

- ・ 家族の意見を重視していたが、もっと本人の意思を聞き出すことをしていきたい。
- ・ 普段の臨床で考えさせられることが多く、活かしていきたいと思いました。
- ・ 時間は限られるかもしれないし、うまくできないこともあるかもしれないが、認知症の方を一人の人として考えて、その方の意見が引き出せるような関わり方を見つけていきたい。
- ・ チームで対象の方々と関わるときに、ひとつの指標となった。
- ・ 認知症患者さんやご家族に数多く接しておられる繁田先生のお話を伺えたことは有意義であった。また多職種の方と意見交換でき有意義であった。

令和8年度も、在宅医療・介護における多職種連携促進のために、人材育成研修を行う予定です。是非、ご参加をご検討ください。



西区の在宅医療・介護連携の取組については、
西区のホームページをご覧ください

